

児童相談所関連研修「児童福祉司（1～2年目）」

【日時】	<p>【第1回】令和3年6月1日(火)、14日(月) 9:00～17:00</p> <p>【第2回】令和3年6月18日(金)、29日(火) 9:00～17:00</p>
【会場】	特別区職員研修所
【受講者数】	128名（第1回、第2回合計）
【講師】	<p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明星大学 人文学部 福祉実践学科 常勤教授 川松 亮 ・武蔵野市立第三中学校 教員 ・港区児童相談所 職員 ・大正大学 心理社会学部 臨床心理学科 教授 近藤 直司 ・法律事務所たいとう 弁護士 吉川 由里 <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都品川児童相談所 職員 ・千葉県柏児童相談所 職員 ・横浜市立大学 大学院医学研究科 法医学 教授 井濱 容子 ・児童養護施設 子供の家 施設長 早川 悟司 ・虐待当事者グループ「りゅうせい会」代表 橋本 隆生
【研修内容】	<p><目的></p> <p>児童福祉司（1～2年目職員）として求められる基礎的な知識・スキルを身につけ、調査・社会診断に基づき、子どもと家庭における課題を把握すると共に、的確なアセスメントに基づく相談援助・対応等を行うことができる実践的能力の向上を図る。</p> <p><内容></p> <p>【第1回】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①多機関連携（総論・各論） ②性的虐待への対応 ③アセスメント ④虐待が子どもに与える影響 ⑤法的対応 <div data-bbox="943 1554 1353 1861" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">≪講義の様子≫</p>

	<p>【第2回】</p> <p>①通告ケースの初期対応 ②子ども、家族との面接 ③法医学からみた子どもの損傷 ④社会的養護（総論・各論）</p>  <p><ロールプレイを行う受講生> <ロールプレイの振り返り></p>
<p>【受講生の声】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を交えながら、他機関との連携の重要性について、学ぶことができました。所属する係には、連携の機会が多いため、日ごろの業務に活かしやすいと思いました。 ・教育現場の現状や現場の声を聞く機会が、実際はケースワーク上でしかなく、とても勉強になりました。今後、通告受理時の対応に活かしたいと思います。 ・いかにアセスメントの知識が不足していたか痛感すると同時に、とても勉強になりました。アセスメントのノウハウを理解し、明日からたくさん活用して、自分のスキルアップにつなげたいと思いました。 ・ロールプレイで、客観的に児童福祉司や父母の様子を見ることで、日ごろから言われている話すペースやアイコンタクトの重要性を実感することができました。 ・医学的で難しい内容でしたが、講師の話はとても分かりやすく、損傷の記録の仕方、どのような着眼点を持てばよいのかなど、実践的で大変勉強になりました。